嶺南振興局二州農林部

サル用電気柵の設置と集落住民の柵点検により農作物被害激減

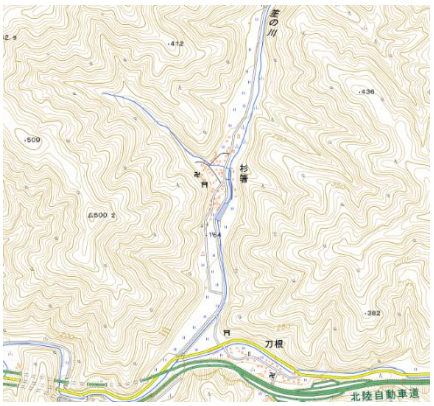
サルによる農作物被害に長年悩まされていた敦賀市杉箸地区においては、集落を囲むようにサル用電気柵を整備するとともに、地域住民による定期的な柵周辺の下草刈りや通電確認等の維持管理を行った結果、農作物被害が激減した。

電気柵の整備に際しては、設置後、集落全体による自主的な点検を行うため、住民の合意形成を図るとともに、柵の点検のためのルール作りや役割分担を明確にした。

現在も、継続的に柵の点検活動等を実施し、農作物被害ゼロを目指している。

地区の概要

地区名	敦賀市杉箸地区
戸　数	36 戸（うち農家８戸）
人　口	61 人
耕作面積	13.6 ヘクタール
主な生産物	水稲、小麦
対策開始年度	令和２年度から



敦賀市杉箸地区の地図

被害の状況と課題

○令和２年度以降、サル群れが頻繁に集落に出没するようになり、農作物被害が深刻化していた。

○年々、農家数が減少し、対策を担うマンパワーが不足していたため、地域住民に対し意識の向上を図るとともに、サルに関する基礎的な知識の習得が必要であった。

○農家組合長等においては、定期的に交替するため、継続的に被害対策を担う人材の育成も必要であった。

○鳥獣害対策は、イノシシ・シカ用金網柵を集落一体に整備しているが、サルには効果がないため、サル用電気柵の整備が必要であった。

○冬季には積雪があり、サル用電気柵を稼働させることができないため、サルを集落に寄せ付けないための追払い活動も行う必要があった。

集落に出没するサル

サルの食害を受けた大根

取組の内容

【地域ぐるみの体制づくり】

・地域住民を対象に複数回サル対策の研修を実施し、適切な電気柵の設置技術や管理方法、有効な追払い対策等を習得した。（サル対策研修会：３回実施）

・当初は非農家住民の研修参加者はいなかったが、区長や農家組合長が熱心にチラシ等を配布し参加を呼びかけたところ、関心も高まり、最終的には非農家住民も研修を受講し、サル対策の問題意識が共有できた。また、この研修を通じて、住民同士のコミュニケーションも図られ、地域のまとまりができた。
（研修受講者：30 人）

・市職員の協力のもと、区長や農家組合長を中心に住民の役割分担を定め、３人一組の班を３班編成し、電気柵の点検活動等を毎週実施している。

【サル用電気柵の整備】

・県や市の補助金を活用し、令和３年度から令和４年度にかけてサル用電気柵を集落一体に延 4,914m整備した。
地元にも費用の一部負担を求めたため、住民自らの管理意識が醸成された。

サル用電気柵の設置状況

【地域ぐるみの有害鳥獣対策支援事業】

・柵のポールに取り付けるセンサー式のソーラー防獣ライトや、ロケット花火等を購入し、地域ぐるみで追払い対策を実施している。

取組の成果

【被害額】　（単位：千円）

令和元年	令和２年		令和３年		令和４年	
実績	実績	増減	実績	増減	実績	増減
1,022	3,684	＋2,662	63	▲3,621	53	▲10

・令和４年においては、地元住民が柵の点検を実施し、被害を最小限に抑えた。

集落の意見

・これまでは、鳥獣被害は農家だけが悩み、対策を実施してきたが、これまでの活動により、地域住民が地域全体の問題として捉え、被害対策の意識も大きく変わった。今後は、サルの追払い活動等を地域で実施していきたい。

今後の課題・取組

・住民の高齢化等により、現在の体制維持が難しくなってきた場合は、体制の整備を再検討する必要がある。

・今後も、地域ぐるみによる対策が継続されるよう、市と連携しながら集落点検等を実施していく。

・当地区での取組みを優良事例として、他地域にも普及拡大を図っていく。